

平成30年8月10日

愛知県上海産業情報センター
余語 克昭

一般調査報告書 中国四川省について

1 四川省について

四川省は中国の南西部、長江の上流域に位置しており、急峻な山岳地帯の天険に守られ、東部には四川盆地が広がり、内陸部にもかかわらず温暖で肥沃な米作地であることから、古くから「天府の国」と称されて栄えてきました。日本では、四川と言うと、ジャイアントパンダや、マーボー豆腐やホイコーロー、担担麺等の四川料理をイメージされる方も多いと思います。また三国時代、劉備玄德が蜀の国を建国した地として、歴史好きの方にとっては非常に魅力に溢れた地域です。

四川省は、北西は青海省、北は甘粛省及び陝西省、東は重慶市（1997年に重慶直轄市として四川省から分離）、南は貴州省及び雲南省、西はチベット自治区と接しており、面積は約48.6万平方キロメートルで中国の行政区分の中で5番目に大きく、おおよそ日本の1.3倍、愛知県の約9.4倍もの面積です。常住人口は8,302万人と、愛知県の約1.1倍の人口を有しています。

省内には、トヨタ自動車をはじめ、自動車等の輸送用機器、IT・電子関係、小売関連等を中心に、約370社の日系企業が進出しています。

省都は成都市で、常住人口は約1,600万人、四川省だけでなく中国内陸西部地域の政治・経済・文化・交通等の中心となっています。また内陸部随一の消費地でもあり、市内中心地には多くの百貨店や大型商業施設が立ち並ぶ大都市です。上述したように、成都を中心とした四川盆地は、土地が肥沃で古くから物質的に恵まれた地域であり、それ故に、現在においても、ゆったりと生活を楽しむ文化が定着していると言われていています。確かに、筆者の生活する上海から成都を訪れると、大都会であることは変わらないものの、どこことなく人々の表情や立ち居振る舞いがゆったりとして、余裕があるように感じられます。

また四川省は観光資源も非常に豊富で、古くから「天下山水の眺めは蜀にあり」と言われるほど、風光明媚な景観に恵まれています。省内には、九寨溝の溪谷の景観と歴史地区、黄龍風景区、ジャイアントパンダ保護区（以上世界自然遺産）、青城山と都江堰（世界文化遺産）、峨眉山と樂山大仏（複合遺産（自然・文化））等、5つの世界遺産が存在している他、12ヶ所の国家AAAAA級観光地、208ヶ所の国家AAAA級観光地を有しています。

2 四川省の経済概況

2017年の四川省の域内総生産（GRP）実質成長率は8.1%と、前年の7.7%から0.4ポイント上昇し、全国のGDP成長率6.9%を大きく越え、中国内の省・市等の中では引き続き高い水準を維持しました。第1次産業は前年比3.8%増の4,283億元、第2次産業は同7.5%増の1兆4,294億元、第3次産業は同9.8%増の1兆8,403億元と、第3次産業の伸びが第2次産業の伸びを上回っています。

電子産業が中核産業の一つとなっており、中西部地域における最大の集積回路の生産地となっています。米半導体系メーカーのインテルやグローバルファウンドリーズ等が進出し、IC設計、チップ製造といった産業チェーンが形成されており、世界のiPadの約50%、ノートパソコンのチップの約50%が四川省で製造されています。

中国における自動車製造の一大拠点でもあり、内資では四川汽車、華晨汽車、吉利汽車、また外資ではトヨタ自動車（一汽トヨタ）やVW、ボルボ、プジョーシトロエン、現代自動車等が省内に製造拠点を設けています。省内の自動車生産量は2010年時点の約10万台から、2017年には150万台に増加しました。

足元の2018年上半期（1～6月）を見てみると、四川省統計局の発表によれば、域内総生産（GRP）は前年同期比8.2%増の1兆8,327億元で、この伸び幅は中国全国平均を1.4%上回りました。工業の41業界中34業界で前年同期よりも増加しており、中でもコンピューター・通信・その他エレクトロニクス設備製造業では8.7%増、航空・宇宙関連設備製造業は13.7%の大幅増となったとのことです。

3 第17回日中地域間交流推進セミナー

四川省の第二の都市である綿陽市において、2018年8月に開催されました「第17回日中地域間交流推進セミナー」（主催：一般財団法人自治体国際化協会、共催：中国外交部外事管理司、綿陽市人民政府）に参加する機会を得ました。このセミナーは、日中間の地域間交流を一層推進することを目的として、2002年に北京市で開催されて以来、毎年中国の各都市を会場として開催されています。

今年度は「新産業創出と企業誘致による持続的な地方の発展」をテーマとして開催され、日中双方より講演がありました。

愛知県からも、「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」について講演を行いました。

同特区は、愛知県・岐阜県を中心とした中部地域に、航空宇宙産業の一大集積地の形成を目指し、2011年に国から指定を受けた国際戦略総合特区です。講演では、特区等を始め、愛知県の航空宇宙産業に関する取り組み等について紹介しました。



愛知県庁産業力強化推進監の講演



パネルディスカッション

日本からは、複数の自治体が参加し、福島県からは「ふくしまの復興と福島イノベーション・コースト構想」と題し、復興状況の説明や、当該地域に新たな産業基盤の構築を目指すプロジェクトに係る講演等がありました。

中国側からは、中国の越境電子商取引の発展状況や対外直接投資に係る取り組み、さらには5G等、中国が世界をリードする先進的な取り組みについての講演・発表があり、興味深いセミナーとなりました。

IT化・キャッシュレス化の進展等、中国が既に日本より先行している分野もあり、一方で医療や環境技術等、日本が世界に誇る先端技術もまた多く存在します。日中両国にとって、互いに学ぶことも、少なからずあるはずです。

2017年は日中国交正常化45周年、2018年は日中平和友好条約締結40周年という節目を迎えた日中関係ですが、産官学分野を問わず、今後もこういった相互理解を深める交流が更に活発になり、日中両国が互いを高め合うようなパートナーになっていくことを願っています。

上海産業情報センターでは、今後も引き続き中国の現地情報について提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。